



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

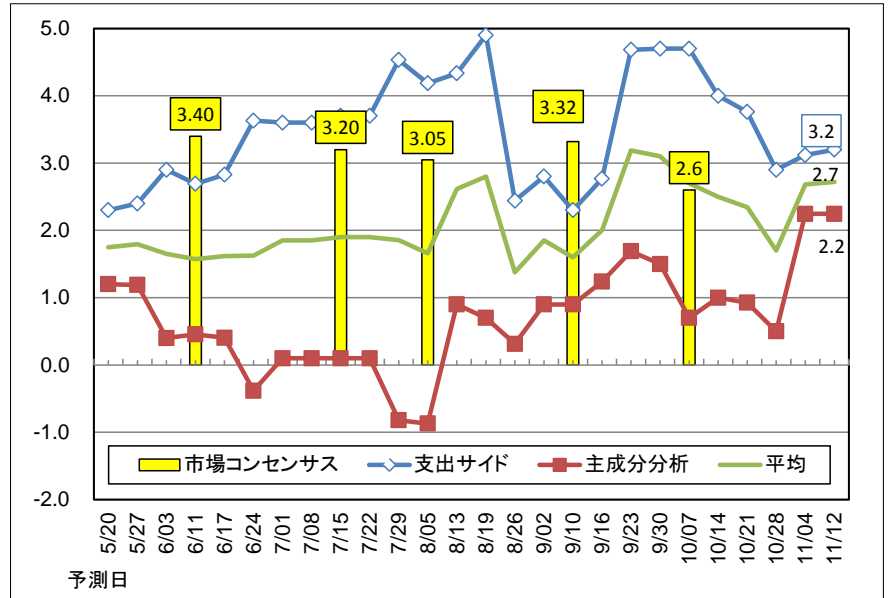
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2013年11月12日)

## ポイント

- ▶今週の予測では、9月の消費総合指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況が更新された。これらは民間最終消費支出、企業設備及び純輸出の予測に影響を与える。
- ▶9月の消費総合指数は前月比+0.8%と3ヵ月連続のプラス。結果、7-9月期は前期比+0.1%上昇した。
- ▶9月の経常収支は8ヵ月連続の黒字となり、黒字幅は前年比+14.3%拡大した。季節調整値の経常収支は7ヵ月ぶりの赤字となった。
- ▶今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.2%と予測。純輸出の予測値が下方修正されたが、民間最終消費支出の予測値が上方修正された。結果、先週から小幅の上方修正。
- ▶一方、生産サイドモデルの予測値は+2.2%となっており、両モデルの予測平均値は+2.7%。14日に7-9月期GDP1次速報値が公表されるので、今回が同期の最終予測となる

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



### <7-9月期実質 GDP 成長率最終予測は前期より幾分減速するが 2.5%~3.0%>

今回更新されたデータは、10月の景気ウォッチャー調査、9月の消費総合指数、情報サービス業売上高、景気動向指数及び国際収支状況である。これらは民間最終消費支出、民間企業設備及び純輸出の予測に影響を与える。

9月の消費総合指数は前月比+0.8%上昇した。3ヵ月連続のプラス。結果、7-9月期の消費総合指数は前期比+0.1%上昇した。先だって発表された7-9月期の全世帯実質消費指数は前期比-0.2%低下したため、消費総合指数はマイナスが予想されたが、結果は小幅のプラスとなった。このため、7-9月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から上方修正された(前期比-0.2%→同+0.0%)。

9月の経常収支は5,873億円と8ヵ月連続の黒字となり、黒字幅は前年比+14.3%拡大した。貿易・サービス収支の赤字幅が拡大したものの、所得収支の黒字幅が拡大したためである。季節調整値の経常収支は-1,252億円と7ヵ月ぶりの赤字となった。結果、上半期(4-9月期)の経常収支は3兆548億円となり、黒字幅は前年同期比+10.7%拡大した。6期ぶりの拡大である。

今週(11/12)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.2%と予測する。今週は純輸出の予測値が下方修正されたが、民間最終消費支出と民間企業設備の予測値が上方修正されたため、先週(+3.1%)からは小幅上方修正となった。一方、生産サイドモデルの予測値は+2.2%となっており、両モデルの予測平均値は+2.7%である。なお14日に7-9月期GDP1次速報値が公表されるので、今回が同期の最終予測となる。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690